

身体障害者診断書・意見書（心臓機能障害 18 歳以上用）

総括表

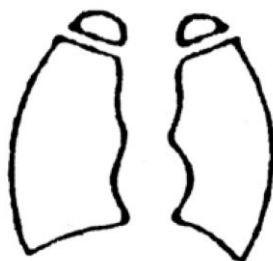
氏 名	年 月 日 生 () 歳	男 ・ 女
住 所		
① 障害名（部位を明記）		
② 原因となった 疾病・外傷名		交通・労災・その他の事故・戦傷 戦災・疾病・先天性・その他 ()
③ 疾病・外傷発生年月日		年 月 日・場 所
④ 参考となる経過及び現症（エックス線写真及び検査所見を含みます。）		
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日		
⑤ 総合所見		
[軽減化による再認定 要 ・ 不要] [再認定の時期 年 月]		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断し、併せて以下の意見を付します。 年 月 日 病院又は診療所の名称 電 話 () 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名 印		
身体障害者福祉法第 15 条第 3 項の意見 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する () 級相当) ・該当しない ※「該当する」「該当しない」の選択及び意見等級は、必ず記入してください。		
注 1 障害名には、現在起こっている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 総合所見には、今後の症状変動の可能性（重度化・軽減化）や、軽減化による再認定の必要性（必要な場合はその時期）も必ず記入してください。 3 障害区分や等級決定のため、改めて身体障害者診断書・意見書の記入内容について問い合わせる場合があります。 4 程度変更に伴う再申請については、新しく追加となる障害内容の記入のみではなく、現在の手帳の障害内容についても障害が存在していれば、併せて診断書に記入してください。		

（該当するものを○で囲んでください。）

1 臨床所見

- ア 動悸（有・無）
 イ 息切れ（有・無）
 ウ 呼吸困難（有・無）
 エ 胸痛（有・無）
 オ 血痰（有・無）
 カ チアノーゼ（有・無）
 キ 浮腫（有・無）
 ク 心拍数
 ケ 脈拍数
 コ 血圧（最大・最小）
 サ 心音
 シ その他の臨床所見
 ス 重い不整脈発作のある場合は、その発作時の臨床症状、頻度、持続時間等

2 胸部エックス線所見（年 月 日）



心 胸 比

3 心電図所見（年 月 日）

- ア 陳旧性心筋梗塞（有・無）
 イ 心室負荷像（有＜右室 左室 両室＞・無）
 ウ 心房負荷像（有＜右房 左房 両房＞・無）
 エ 脚ブロック（有・無）
 オ 完全房室ブロック（有・無）
 カ 不完全房室ブロック（有第 度・無）
 キ 心房細動（粗動）（有・無）
 ク 期外収縮（有・無）
 ケ S T の低下（有 mV・無）
 コ 第Ⅰ誘導、第Ⅱ誘導及び胸部誘導（ただし、V1を除く。）のいずれかのTの逆転（有・無）
 サ 運動負荷心電図におけるS Tの0.1 mV以上の低下（有・無）
 未施行（理由）
 シ その他の心電図所見
 ス 不整脈発作のある者では発作中の心電図所見（発作年月日を記入してください。）

4 活動能力の程度

- ア 家庭内での普通の日常生活活動若しくは社会での極めて温和な日常生活活動については支障がなく、それ以上の活動でも著しく制限されることがないもの又はこれらの活動では心不全症状若しくは狭心症症状が起こらないもの
- イ 家庭内での普通の日常生活活動若しくは社会での極めて温和な日常生活活動には支障がないが、それ以上の活動は著しく制限されるもの又は頻回に頻脈発作を繰り返し、日常生活若しくは社会生活に妨げとなるもの
- ウ 家庭内での普通の日常生活活動又は社会での極めて温和な日常生活活動には支障がないが、それ以上の活動では心不全症状又は狭心症症状が起こるもの
- エ 家庭内での極めて温和な日常生活活動には支障がないが、それ以上の活動では心不全症状若しくは狭心症症状が起こるもの又は頻回に頻脈発作を起こし、救急医療を繰り返し必要としているもの
- オ 安静時若しくは自己身の日常生活活動でも心不全症状若しくは狭心症症状が起こるもの又は繰り返してアダムスストークス発作が起こるもの

注 診断書の活動能力の程度と等級の関係は、次のとおり作られているものです。

- ア…………… 非該当
- イ・ウ…………… 4級相当
- エ…………… 3級相当
- オ…………… 1級相当

- 5 人工弁移植・弁置換 (有 ・ 無) (手術日 年 月 日)
- 6 ペースメーカ (有 ・ 無) (手術日 年 月 日)
- ペースメーカの適応度 (クラスⅠ ・ クラスⅡ ・ クラスⅢ)
- 身体活動能力(運動強度) (メッツ)

身体障害者診断書・意見書（心臓機能障害 18歳未満用）

総括表

氏 名	年 月 日 生 () 歳	男 ・ 女
住 所		
① 障害名（部位を明記）		
② 原因となった 疾病・外傷名		
交通・労災・その他の事故・戦傷 戦災・疾病・先天性・その他 ()		
③ 疾病・外傷発生年月日		
年 月 日・場 所		
④ 参考となる経過及び現症（エックス線写真及び検査所見を含みます。）		
障害固定又は障害確定（推定）		
年 月 日		
⑤ 総合所見		
[軽減化による再認定 要 ・ 不要] [再認定の時期 年 月]		
⑥ その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断し、併せて以下の意見を付します。 年 月 日 病院又は診療所の名称 電 話 () 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名 印		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・該当する (級相当) ・該当しない ※「該当する」「該当しない」の選択及び意見等級は、必ず記入してください。		
注 1 障害名には、現在起こっている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 総合所見には、今後の症状変動の可能性（重度化・軽減化）や、軽減化による再認定の必要性（必要な場合はその時期）も必ず記入してください。 3 障害区分や等級決定のため、改めて身体障害者診断書・意見書の記入内容について問い合わせる場合があります。 4 程度変更に伴う再申請については、新しく追加となる障害内容の記入のみではなく、現在の手帳の障害内容についても障害が存在していれば、併せて診断書に記入してください。		

（該当するものを○で囲んでください。）

1 臨床所見

- ア 著しい発育障害（有・無）
 イ 心音・心雑音の異常（有・無）
 ウ 多呼吸又は呼吸困難（有・無）
 エ 運動制限（有・無）
 オ チアノーゼ（有・無）
 カ 肝腫大（有・無）
 キ 浮腫（有・無）

2 検査所見

（1）胸部エックス線所見（年 月 日）

- ア 心胸比0.56以上（有・無）
 イ 肺血流量増又は減（有・無）
 ウ 肺静脈うつ血像（有・無）



心 肺 比

（2）心電図所見

- ア 心室負荷像 [有（右室・左室・両室）・無]
 イ 心房負荷像 [有（右房・左房・両房）・無]
 ウ 病的な不整脈 [種類]（有・無）
 エ 心筋障害像 [所見]（有・無）

（3）心エコー図及び冠動脈造影所見（年 月 日）

- ア 冠動脈の狭窄又は閉塞（有・無）
 イ 冠動脈瘤又は拡張（有・無）
 ウ その他

3 養護の区分

（1）6か月から1年までごとの観察

（2）1か月から3か月までごとの観察

（3）症状に応じて要医療

（4）継続的要医療

（5）重い心不全、低酸素血症、アダムスストークス発作又は狭心症発作で継続的医療を要するもの
 注 養護の区分と等級の関係は次のとおりに作られているものです。

- （1）…………… 非該当 （4）…………… 3級相当
 （2）（3）…………… 4級相当 （5）…………… 1級相当